

インフォメーション・マネジメント・ソフトウェア
ホワイト・ペーパー

DB2 Information Management Software



IBM Informix ポートフォリオ：
エグゼクティブ・オーバービュー

2004年7月

目次

1	はじめに
1	IBM Informix Dynamic Server
2	IBM Informix 4GL
3	IBM Informix Client Software 開発者キット
3	DB2 との互換性
4	IBM Informix Standard Engine (SE)
4	IBM Informix OnLine Server
5	IBM C-ISAM
5	IBM U2 製品ファミリー
6	IBM UniVerse
6	IBM UniData
6	IBM U2 および DB2
7	IBM Red Brick Warehouse Server
7	IBM Informix Extended Parallel Server
7	IBM Informix 製品群の ISV サ ポート
8	システム可用性の最大化
9	まとめ

はじめに

Informix[®] Corporation を 10 億ドルで買収してから 3 年後の現在、IBM は、Informix および U2 プロダクト・ファミリーのお客様に対してこれまで以上に強いコミットメントを示しています。IBM では引き続き Informix 製品をソフトウェア・ブランドのコア・ポートフォリオに含め、e-business on demand[™] 戦略の一部として Informix ソリューションを強化しています。長期の製品ロードマップでは、これらの重要ソリューションに注力することを強調しています。

現在、お客様の大部分は、IBM が 2001 年 7 月に行った約束を果たしていると認めています。業界アナリストの Bloor Research の最近の調査では、「Informix ユーザーの圧倒的多数は満足しており、当面はこの製品の使用を継続する意思があることをはっきり示していることが、あらゆる事実から示されている」と述べています（このレポートの全文については、ibm.com/software/data/informix/pubs/pdfs/ids-bloor-91903.pdf をご覧ください）。

今後も IBM は、Informix および U2 のお客様の既存投資の活用を支援し、お客様のビジネスの成長に必要なサポートの提供を続けます。例えば、Informix ならびに U2 製品と IBM ミドルウェア・ソリューションとの間の相互運用性を強化する努力をしています。これは、Informix と U2 のお客様が市場状況の変化を感知し、反応できる、回復力のあるオンデマンド運用環境を構築できるようにします。

この文書では、主要な Informix および U2 製品ラインそれぞれの計画の概要を説明します。

IBM Informix Dynamic Server

IBM Informix Dynamic Server (IDS) は Informix ファミリーの代表製品で、IBM は Informix の買収前と同じペースで開発を続けています。最新リリース、IDS V 9.4 はこれまでで最高の高速性、可用性、スケーラビリティを有する IDS で、市場でも高い成果を収めています。IDS V 9.50 は現在ベータであり、現時点では IDS 9 製品ラインの終了計画はありません。

IBM では、IDS に対するコミットメントの一環として V 9.4 と IBM の WebSphere[®]、DB2[®]、Tivoli[®]の各ソフトウェアとの統合を実現しています。これにより Informix のお客様は広範な IBM ソリューションを活用して、回復力のある e-business on demand の運用環境を構築し、パフォーマンスを損なわずにお客様の利用ピーク時に対処できるようになります。

IBM Informix and WebSphere Bundles は、グローバルな Informix 環境で e-business on demand を推進します。IDS と WebSphere 製品の強力な結合によって、高いパフォーマンス、信頼性、可用性が提供され、IDS V 7 から、IDS V 9.4 と WebSphere をまとめて経済的に上位機種に買い換えることができます。

IBM Informix 4GL

IBM Informix 4GL V 7.32 (4GL) は、高速アプリケーション開発ツールで、IDS V 9.4 のユーザーはその利点をすべて生かすことができます。Informix アプリケーションの多くは、4GL を使用して構築されています。4GL 7.32 は、IDS V 9.4 と緊密に統合され、長い識別子名への対応機能など、IDS V 9.4 で拡張された多くの新機能をサポートします。例えば、識別子名については、最長 128 文字まで使用可能になりました。さらに、4GL 7.32 の新たな Dynamic Arrays 機能は、非常に効率の高いメモリー使用を可能にします。

先ごろ IBM では IBM WebSphere Studio Application Developer および IBM WebSphere Studio Site Developer V 5.1.2 を利用できる最新の Informix 4GL ソリューションを初めてリリースすると発表しました。Informix 4GL と WebSphere Studio との統合は、IBM の戦略的な Informix 4GL 最新化方針を示すものです。WebSphere Studio 5.1.2 製品には、新たに実装した IBM のエンタープライズ開発言語 (EGL) に、重要な Informix 4GL の構成要素が組み込まれています。EGL は、Java[™] に不慣れな 4GL の開発者がデータ主導型の Web アプリケーションとビジネス・ロジックを容易に構築できるとの評を得ている、高レベルの 4GL 言語です。Informix 4GL の開発者が EGL でアプリケーションの作成とデバッグを行うと、WebSphere Studio によってその Java コードが生成されます。Informix 4GL 開発者はこれを JavaServer Faces (JSF) とともに使用することによって、Java 言語を習得しなくても動的な Web アプリケーションを構築できます。この新機能によって、新たな Informix 4GL 開発者層にも Java 開発の可能性が広がり、担当ビジネス分野の専門知識とプロシージャー開発者としてのスキルを活用して、IBM データベース (Informix と DB2) を使用した動的な Web アプリケーションを迅速に構築できます。

残りの Informix 4GL 構成要素との統合は、2004 年第 4 四半期に予定されている WebSphere Studio 6.0 で完了します。これにより、4GL スタイルの文字ユーザー・インターフェース機能と、Informix 4GL から WebSphere Studio EGL への重要な変換を実現する変換ユーティリティーが利用可能になります。変換によって、フィールド・テストが行われた Informix 4GL ビジネス・ロジックをさらに次世代 EGL アプリケーションに使用できるようになります。

IBM Informix Client Software Development Kit

IBM Informix Client Software Development Kit (CSDK) は広範な言語をサポートし、構造化照会言語 (SQL) を使用してすべての Informix データベースと通信できるアプリケーションを構築できます。さらに最新リリース V 2.81 では、Open Database Connectivity (ODBC) と Object Linking and Embedding Database (OLE DB) ドライバーの Unicode 拡張および IDS V 9.4 の新機能のサポートが組み込まれています。この CSDK は、C、C++、Java、Microsoft .NET などの多様なアプリケーション開発言語と環境に使用できます。IBM は主要なアプリケーション開発環境のサポートを確約しており、Microsoft .NET のサポートは Microsoft 開発ツールを使用する開発者にとって非常に重要なものです。CSDK はリリースを重ねるごとに .NET のサポートを拡張していきます。

DB2 との互換性

IBM は、主要なリレーショナル・データベース・テクノロジーを DB2 Universal Database™ と IDS の両方の将来のバージョンに統合する取り組みを継続しています。DB2 Universal Database は、パフォーマンス強化や高可用性データ・レプリケーション(HDR)などの Informix テクノロジーの利点を生かしています。IDS は DB2 の Unicode テクノロジーの利点を生かして IDS V 9.4 に採用し、さらに IDS V 9.5 では DB2 のオートノミック機能の拡張が組み込まれます。Microsoft .NET のサポートは、両製品に同時に追加されています。

IBM では、2001 年に営業譲渡を受けて以来、Informix と DB2 Universal Database との互換性の強化に注力しており、これにより IBM データマネジメント製品群のお客様が、結合力が強く、市場をリードするリレーショナル・データベース・ファミリーをもとにビジネスを築けるようになります。IBM では Informix との互換性だけでなく、情報の統合、XML、Web サービスおよびオートノミック・コンピューティングの領域にもかなりの投資をしています。

IBM Informix Standard Engine (SE)

IBM Informix SE は、その操作性と完全自動式のインストールが IBM ビジネス・パートナー・コミュニティによって評価され、世界中の数千ものパートナーのアプリケーションに組み込まれています。この従来型データベース・サーバーは、堅固な信頼性、簡素さ、操作性において評価を得てきました。IBM は、既存のお客様および IBM ビジネス・パートナーに対して SE のサポートを引き続き提供します。IBM では、SE の大きな魅力となっている基本的な安定性を損なうことなく、新規および更新されるオペレーティング・システムが利用可能になった時の移植に重点をおき、このサポートを提供する計画です。

IBM Informix OnLine

IBM Informix OnLine は、同時ユーザー数が 100 未満の中小規模ビジネスにおける SQL データベースのニーズを満たす選択肢として高い評価を得ています。OnLine Extended Edition V 5.20 には、大型ディスクの使用を可能にする機能拡張と、STAR として知られている分散データベースへのアクセス・コンポーネントが組み込まれています。さらに、最新の Informix 4GL にも対応しています。現時点では今後の拡張リリースは計画されていませんが、IBM では将来も長年にわたって Informix OnLine のサポートを継続する意向です。

IBM Informix C-ISAM

IBM Informix C-ISAM（索引順次アクセス方式）は、データ・アクセス・アプリケーション・プログラミング・インターフェース（API）の C 言語ライブラリーで、世界中の多数のアプリケーションの基礎となるソフトウェア・インフラストラクチャーを提供します。X/Open 標準の初期のリファレンスとしての役目を果たし、堅固なレコード管理ライブラリーを必要とする開発者に使用され続けています。IBM は C-ISAM の現行プラットフォームの最新バージョンを今後も長期にわたってサポートしますが、新規リリースの予定はありません。

また、C-ISAM 製品群には、ISAM ファイルを効率的に管理する C 言語関数のライブラリーである DataBlade™ モジュールも含まれます。これは、C-ISAM 環境への RDBMS 機能の追加に興味がある、あるいはリレーショナル・データベース管理システム（RDBMS）環境への C-ISAM アプリケーションの移行に取り組むお客様およびソフトウェア・ベンダー向けに特に開発されたものです。

IBM U2 製品ファミリー

IBM U2（UniVerse および UniData）製品は、中小企業市場のニーズを満たすための戦略的な利点を提供します。U2 プロダクト・ファミリーのコア・コンポーネントの IBM UniData®と IBM UniVerse®は、多様な垂直型アプリケーションへの組み込みの際にハイパフォーマンス、スケーラブルな情報管理環境を提供します。これらの製品は、IBM の複数値のリレーショナル・データベース管理システム（RDBMS）戦略の主要コンポーネントです。IBM RedBack、IBM SystemBuilder および IBM wIntegrate などの補助ツールによって、高機能ソリューションの開発を実現するテクノロジーと機能がパートナーに提供されます。IBM は、お客様からの要望がある限り、これからも U2 プロダクト・ファミリーの拡張とサポートを続けます。

IBM UniVerse

IBM UniVerse は直接レコード入出力言語と標準 SQL の両方をサポートし、Microsoft .NET、ActiveX、ODBC、OLE DB、JDBC および Java に対するインターフェースを提供します。IBM は、UniVerse のお客様およびパートナーに対して拡張とサポートを提供する意向です。最新バージョンの UniVerse V 10.1 では、パフォーマンス強化、XML、SOAP クライアント API のサポート、SSL for JDBC、telnet、UniObjects for Java の可用性の拡張が行われています。さらに、IBM WebSphere MQ とのインターフェースを介したエンタープライズ・アプリケーション統合のオプションも用意されています。

UniVerse 11.1 は、2006 年初期のリリースを目指していますが、メタデータ管理とデータ移行用のツールを完備した External Database Access (EDA) が組み込まれる予定です。

IBM UniData

IBM UniData は、SQL 準拠の拡張リレーショナル・データベースで、リピーティング・グループ、階層、配列をサポートします。UniData は、.NET、ActiveX、Java テクノロジーおよび C インターフェースとの最適な組み合わせのネイティブ・インターフェースと、JDBC、ODBC、OLE DB、HTTP などの業界標準インターフェースの両方を提供します。IBM は、UniData のお客様およびパートナーに継続的な拡張とサポートを提供していく意向です。UniData 6.1 は 2004 年の夏のリリースを目指していますが、GUI XML マッピング・ツール、SOAP クライアント API、および管理対象 .NET 環境へのハイパフォーマンスのアクセスを行うためのネイティブ・インターフェースである UniObject .NET などの XML の拡張サポートが組み込まれます。このリリースには、スクロール可能カーソルや SSL サポートなどの JDBC 拡張も含まれます。さらに、スキーマ API もファイル間の関係が定義できるように拡張され、ODBC ベース・ツールによるアクセスが容易になります。

IBM U2 および DB2

UniVerse と UniData はその固有の特性により、DB2 へのネイティブな統合には適しません。U2 と DB2 の組み合わせを最大限活用するため、緊密にバインドされた XML ベースおよび SQL ベースのインターフェースをサポートするように U2 データベースを進化させて、U2 アプリケーションから DB2 のデータに対する直接的なアクセス、保存および検索を可能にします。

IBM Red Brick Warehouse Server

IBM Red Brick™ Warehouse Server は、要求の厳しいデータウェアハウスおよびデータマートのニーズにこれからも対応していきます。Red Brick Warehouse Server V 6.30 は、2004 年 4 月にリリースされ、STARjoin、TARGETjoin および STARindex 機能のパフォーマンスが大幅に改善されています。また、SQL OLAP 関数と式の追加サポートなどによりユーザビリティも改善されています。さらに、このリリースでは、Microsoft® Windows® プラットフォームにおける 3 ギガバイトのアドレス・スペースに対応しており、スケーラビリティとパフォーマンスが改善されています。このほかに、Intel 64 ビット Itanium プラットフォームで実装される Hewlett-Packard の HP-UX 11i オペレーティング・システムのプラットフォームおよび Microsoft Windows Server 2003 (32 ビットプラットフォーム) もサポートされています。

IBM Informix Extended Parallel Server

世界大手の金融機関、旅行サービス会社、および小売業者は、IBM Informix Extended Parallel Server (XPS) 上で重要な企業データウェアハウスの実行を引き続き行っています。V 8.40 ではパフォーマンスおよび分散データベースのサポートが大幅に拡張されています。次のリリース、XPS V 8.50 は開発中で、2004 年後半のリリースを予定しています。新リリースでは、バックアップおよびリストアのオプションの柔軟性が強化され、可用性、表リカバリ、動的ログなどの操作性に関する機能が改善されています。

IBM Informix 製品群の ISV サポート

SAP

IBM はこれからも IDS で SAP ソリューションを運用しているお客様をサポートします。一方 SAP でも、新しい拡張のすべてに IDS サポートを組み込みます。ただし、mySAP アプリケーションや、Java データベース API 使用の拡張、および mySAP アプリケーションの Unicode オプションについての移植は予定されていません。先ごろ SAP は IDS 9.40 の認定を終了し、2005 年には IDS 9.50 で SAP NetWeaver '05 の認定を行う計画です。全 SAP 製品の 5 年間の保守およびサポート・ポリシーによって、SAP/Informix のお客様は少なくとも 2009 年までは保証の対象になります。

PeopleSoft

お客様はこれまでどおり、PeopleSoft の実装で既存の Informix 製品のオフラインによるサポートを受けることができます。また PeopleSoft は、ヒューマン・キャピタル・マネジメント、ヒューマン・リソース管理、ファイナンシャル・マネジメント・ソリューション、エンタープライズ・サービス・オートメーション、サプライチェーン・マネジメントおよび流通製品スイートについて、PeopleSoft V 8.x まで IDS をサポートすることを公式に確約しています。

Baan

Baan および IBM 両社は、ジョイント・ソリューションのサポートを確約し、Informix のお客様は、これまでどおり既存の認定 Informix および Baan 製品ラインを使用できます。iBaan ERP 5.0c の IDS V 9.4 の認定は完了間近です。

その他の ISV

Informix および U2 データベース・サーバーで運用されるアプリケーションの ISV の一覧は、広範囲に及びます。これら ISV の大多数は、Informix および U2 上で継続的にアプリケーションを使用したいという強い需要を理解し、Informix および U2 のお客様に対する IBM の長期にわたるコミットメントと互換性計画に満足の意を示しています。

システム可用性の最大化

お客様サポート

Informix および U2 のお客様には、システムの可用性を最大化し、スタッフの生産性を最適化する支援としてのさまざまなサポート・オプションが用意されています。豊富な知識を備えた Informix および U2 のサポート技術員が、これからも、24 時間 365 日体制で電話や Web を通じて Informix および U2 のユーザーの IT ニーズのすべてに関する支援を提供していきます。IBM Passport Advantage 保守サービスも利用することができます。IBM は、複雑な最先端の環境で基本保守以上のサポートの必要があるユーザーに対して、システムの可用性とスタッフの生産性を改善するプレミアム・サービス・プログラムも提供しています。

お客様および開発者向け教育およびプロフェッショナル・サービス

IBM のプロフェッショナル・サービスと教育チームは、これからも Informix、U2、および DB2 プロダクト・ライン全体のオフリングを提供します。IBM グローバル・サービスとの強力なパートナーシップと、先ごろ発表された Education Centers for IBM Software によってこのオフリングの範囲が拡張されています。世界で 500 を超える強力な IBM 情報管理サービスおよび教育チームを 24 時間利用することができ、Informix、U2 および DB2 のソリューションの効率的な活用に必要なスキルへのアクセスをお客様とパートナーに提供しています。

まとめ

Informix と U2 の世界各地のお客様およびパートナーは今後も、Informix と U2 テクノロジーの機能拡張と保守を行い、他の IBM ソフトウェア製品との統合を継続していく IBM のコミットメントに対し、引き続きその価値を高く評価していただけます。単独のソフトウェア・インフラストラクチャー・ベンダーだけで対応できるという利点に加え、Informix と U2 のお客様は、最小限の総所有コスト (TCO) で最適な e-business on demand インフラストラクチャーの構築が可能になります。

IBM では、Informix および U2 のユーザーには、下記の Web サイトをご覧くださいようお勧めしています。この Web サイトには Informix と U2 の製品、教育、サービスおよび Informix および U2 の製品の詳細なロードマップなどを含む IBM ビジネス・パートナーのオフリングに関する最新情報が掲載されています。

- ・ ibm.com/informix
- ・ ibm.com/software/data/u2

Informix および U2 の製品は今もなお、他のテクノロジー・ファミリーでは解決できないビジネスの問題を解決しています。Informix と U2 のソリューションを 2004 年にご購入いただくことは、長い将来にわたって安定した利益を継続してもたらすための健全な経営意思決定となるでしょう。



© Copyright IBM Corporation 2004

IBM Corporation
Silicon Valley Laboratory
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141
U.S.A.

Printed in the United States of America
08-04
All Rights Reserved

DataBlade, DB2, DB2 Universal Database, IBM, the IBM logo, Informix, the On Demand logo, Red Brick, Tivoli, UniData, UniVerse and WebSphere are trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries or both.

Microsoft and Windows are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries or both.

Java and all Java-based trademarks are trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the United States and other countries.

Other company, product and service names used in this publication may be trademarks or service marks of others.

The information in this white paper is provided by IBM on an as-is basis without any warranty, guarantee or assurance of any kind. IBM also does not provide any warranty, guarantee or assurance that the information in this white paper is free from any errors or omissions.

IBM undertakes no responsibility to update any information contained in this white paper. This publication contains Internet addresses of other companies. IBM is not responsible for the content on these Web sites.